

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0160590071), 法人名 (社会医療法人 恵和会), 事業所名 (アムニティ西岡水源池グループホーム 2階 空の虹), 所在地 (札幌市豊平区西岡4条13丁目7番20号), 自己評価作成日 (令和3年9月), 評価結果市町村受理日 (令和4年2月28日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの理念にもとずき「なじみ」のある環境を築き、ご利用者の尊厳を第一に考えて日々話し合いながら一人一人にあった支援を行っている。人材育成における「課題」が何であるかを他スタッフ全員で共有している。その上で「できないこと」と「できる」ようにする為に指導している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 1 row: 基本情報リンク先URL (http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_022\_kari=true&JigyosyoCd=0160590071-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年12月8日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(Empty box for external evaluation comments)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時より「馴染みのある環境生きがいのある生活」を継続し理念として実践に活かせるように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により地域の方々との交流は控えている。コロナ禍が終息したら以前のように地域の方々との交流を考えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の回覧板でホーム内の状況をお知らせしている。運営推進会議などで、認知症の理解を深めて頂けるように資料を配布しアドバイスに応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により集まる事は行っていないが、書面でホームの様子等を報告し電話でご意見も伺っている。コロナ禍が終息したら以前のように開催する予定。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者や役職者は札幌市の担当者と日頃から電話で問い合わせ確認、相談を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回、身体拘束に関する勉強会を行い、年に4回身体拘束適正化委員会を実施している。その他、外部の研修等に積極的に参加している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ禍のため研修等に参加できていないため、ホーム内で虐待についての資料は配布し理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に成年後見制度等の勉強会を行っている。不明な事があれば、運営推進会議等で地域包括支援センターに確認している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	コロナ感染拡大防止のため、契約の際は、タブレットでホームの様子を見て頂き、話し合いや相談に応じている。また十分な説明を行い、合意を得た上で契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より話やすい雰囲気作りを心がけている。また毎月、ご家族向けのお便りを発行し、個々の活動状況等を報告している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談を実施し、常時、意見交換できる雰囲気を作っている。また職員会議でも意見や提案を積極的に聞き取りを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、職員が協力し合って、希望する休みが取得できるよう努めている。また職員一人一人が向上心を持って働けるよう、毎年、目標を作成している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年法人内で行っている介護職員資質向上研修会はコロナウイルスの影響で中止や一部オンライン等で実施している。ホーム内での勉強会は毎月テーマを決め書面で行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染拡大防止のため、交流することは控えている。電話等で情報交換を行い、サービスの向上に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にはご本人と面会し悩みや不安に思っていることをご家族と一緒に確認し、情報を得ながらコミュニケーションを図り、信頼関係ができるような取り組みを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安に思っている事・困っている事をお聞きして、安心して頂けるような対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族が望まれている支援をしっかりと話し合う時間を設けている。また、他のサービス利用も含め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で役割を持って生活できるように、個々の能力に応じた得意な事を活かして頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族来所持、変化の有無に関わらず本人の状況をお伝えし、日頃から蜜にコミュニケーションを取っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自室には自宅から持参した物をおいて頂いたり、写真等を飾っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士で支え合い、思いやりをもって接して頂けるように各々役割を持って頂き、協力し合えるように支援している。またスタッフが間に入りトラブルなど未然に防いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後もご利用者・ご家族の相談や支援できる体制を整え、特に連絡があった場合には、状況に応じた対応に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で、ご利用者の思いをくみ取れるように努めている。又、困難な方にはご家族の協力を得、暮らしやすい環境を作れるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでのご利用者の生活歴や習慣等をお伺いした内容を、基本情報シートに記入して、職員全員が把握できるようにしている。また、居室には使い慣れた家具・寝具等持ち込んで頂き、馴染みのある生活環境を提供できるように取り組んでいた事などできる限りの中で継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方や心身状態を個別に記録している。申し送りで、伝達し情報を共有して把握できるように努め、介護計画に反映できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者、ご家族の希望、要望をお伺いし、職員全員で現状に即した介護計画を作成。また変化に応じたサービスの変更を行い見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で、変化や支援の実践・結果等を個別記録に記載して、一日二回の申し送りで情報を共有し意見交換を行い確認合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者・ご家族の希望や意向をお聞きして、個々のニーズは何か常に意識しサービスを提供できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、外出不可能な状況でもホーム内で出来る活動に取り組み、楽しんで頂ける環境作りに努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に訪問診療(内科、歯科、皮膚科)、訪問看護によるサポートを受けながら適切な医療が受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のご利用者の様子を訪問看護師に伝えている。様子に変化がある時には必ず報告、相談を行うことで情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院時に備え、日頃から医療機関と相談や報告をして情報を交換しており、円滑に対応できるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご利用者、ご家族の意向に添えるよう、担当医、訪問看護と連携をとりながら、その方に合った介護計画を作成し支援している。状況の変化や様子については、ご家族に報告を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時は、マニュアルがあり、速やかに動けるように勉強会で確認を行っている。不安がある時には、スタッフ間で相談している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回火災の避難訓練と年に1回災害(地震想定)の避難訓練を行っている。2020年よりコロナ禍のため町内会の参加は控えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎年、勉強会で必ず人格の尊重とプライバシーについての発表を行い、意識を高めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のケアの中で、ご本人の希望や思いを傾聴し自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意思を尊重し、やりたくない事は無理強いないせ、できる限りご本人のペースで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一度、訪問理美容や定期的に馴染みの美容室を利用して頂いている。好きな服や馴染みのものを着用して頂いたり、お化粧品も個々に任せて行って頂いて。ご自分で整える事が困難な方には、鏡を見て頂く、くしを持って頂く等の働きかけを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染の状況を踏まえるとご利用者と一緒を作る、盛り付けすることは難しい。それ以外の配膳、食器洗いはお願いしている。畑での収穫によりご利用者との会話も広がった。うな重やかに飯など楽しめる食事や季節を考えたメニュー等を提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	猛暑日が続いたが、水分量の低下が気になると職員どうしが話し合い適切な水分量や嗜好品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、不十分な部分は介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の認知状況の悪化を考えるとおむつの使用を減らすことは難しいができる限りトイレでの排泄ができるような対策を行っている。(声掛け定時の誘導等)		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者の排便状況を職員間で把握している。新人の職員に対しても乳製品の提供等の指導を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理に誘うのではなく、ご利用者の意向にそった声掛け、誘導を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の体力や活動時間を職員が把握し昼夜逆転することなく活動への誘いや声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員同士で声をかけあいながら内服薬をセットしている。内服時は名前、日付、朝・昼・夕を声を出しながら内服して頂くことで誤薬を防止している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	活動の際どういった状況だったかを職員間で申し送ることで、できる事、できない事の情報共有をし、個々に合った活動を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響で、今年度の外出は控えている。レクリエーションや行事をホーム内で楽しんで頂けるよう計画している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方は少額でもご自分で管理して頂き支援している。管理できない方は、ホームで管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナウイルスの影響で面会は禁止しているが、タブレットを使用しオンライン面会を実施している。ご家族から電話が来た場合は、要件だけではなく日頃の様子も伝えている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	装飾物を日々のレクリエーションの中で一緒に作っている。写真をたくさん貼り、その写真を見て楽しい思い出をスタッフ又は、ご利用者同士で会話ができるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者同士が声を掛け合い居間で過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	リラックスして過ごせるよう使い慣れた物を持参して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレにはわかりやすいように大きな文字で「トイレ」と表示している。居室も同様に行い、誰でも分かるよう、また迷わないよう工夫している。		